令和５年度　　学校評価　最終評価結果　　珠洲市立上戸小学校

重点目標	自己評価						備考
	評価項目	具体的取り組み	評価指標	評価：達成度判断基準	取組の状況・結果	達成状況	
1 学びづくり	総合的な学力の向上	・学力調査の結果を分析して定着していない内容を授業や朝学習で補強する。 ・授業での学んだ知識や言語力を活用して思考、判断し表現する活動場面の設定。 ・国語検定、算数検定の取組	【成果指標】 各種・学力調査の結果が県及び国の平均を上回っている。	全国学力学習状況調査・県基礎学力調査・市学力調査の結果が国平均・県平均・市平均を上回っている教科が全体の A: 80%以上 B: 75%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	2月に行った学力調査では、全学年12科目中11科目（92%）が全校平均を上回っていた。また、全国平均を10ポイント以上上回っている科目が5科目あった。学校全体として学力が良く身に付いている。	A	主担当：中谷 評価方法： 学力調査 評価実施時期： 8月、1月
	学力向上プランの推進	・授業でリレートークによる対話場面の設定。 ・話し方、聞き方を各学級の実態に応じて指導する。	【成果指標】 相手の話をしっかり聞いたり自分の考えを伝えたりすることができる力が児童に身に付いている。	学習アンケートで「みんなに聞こえる声で考えを伝える」という項目で肯定的な回答をした児童の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	9 月～12 月の学習アンケート結果の平均は92%だった。授業では自分の考えに理由もつけて話す児童が増えている。ミニトーク集会や相互参観週間で他学年の話し方・聞き方の良さを見つけることができた。	A	主担当：中谷 評価方法： 児童に対する学習アンケート 評価実施時期： 7月、1月
	GIGA スクール構想の推進	・週に一度、タイピングの技能を計測する時間を設ける。 ・休み時間や家庭学習等で、積極的にクロームブックを活用させる。 ・3年生については、ローマ字の学習の定着を図る。	【成果指標】 児童にタイピングの技能が身に付いている。	タイピングのアプリを活用する。5分間で入力できる文字数の平均（3～6年）が A: 390文字以上 B: 360文字以上 C: 330文字以上 D: 330文字未満	2学期と比較して、入力できる文字数が360文字になり、前回より30文字増えた。日常的なタイピング練習の他、授業で活用する中で、力がついたことがうかがえた。	B	主担当：松本 評価方法：タイピングアプリ 評価実施時期： 7月、1月
2 心づくり	明るい挨拶があふれる学校づくり	・生活目標に挨拶に関する目標を決め、挨拶の習慣の定着を図る。 ・「あいさつ4つのコツ」を学級で指導し意識させる。	【満足度指標】 児童がすすんで挨拶する習慣が身に付いている。	児童アンケートで「挨拶は、明るく、いつでも・どこでも・だれにでも、先にしている。」という項目で肯定的な回答をした児童の割合が A: 児童の90%以上 B: 児童の80%以上 C: 児童の70%以上 D: 児童の70%未満	肯定的な回答が100%と、児童は進んで挨拶をしている。グッドマナーキャンペーンの取組や、普段の声かけ、道徳の授業を通して挨拶のよさについて児童に働きかけている。今後も挨拶する習慣が身に付くように継続して取り組んでいく。	A	主担当：中村 評価方法： 児童アンケート 評価実施時期： 7月、1月
	良好な人間関係の構築	・児童理解の会や生活アンケートを通して、共通理解を図る。 ・全校児童で活動するゴールデンタイムを設ける。	【満足度指標】 児童が学校生活の中で友達と仲良く勉強したり遊んだりしていると感じている。	児童アンケートで「学校は楽しい。」という項目で肯定的な回答をした児童の割合が A: 児童の90%以上 B: 児童の80%以上 C: 児童の70%以上 D: 児童の60%以上	「学校は楽しい」と回答した児童は100%であった。生活アンケートを毎月実施し、相談する機会を設けている。ゴールタイムの取組や縦割り班での活動が、学年を越えて絆を深める活動となっていた。	A	主担当：中村 評価方法： 児童アンケート 評価実施時期： 7月、1月

重点目標	自己評価						備考
	評価項目	具体的取り組み	評価指標	評価：達成度判断基準	取組の状況・結果	達成状況	
3体づくり	体力の向上	・年間を通してスポチャレ8の字に取り組ませる。 ・体育の時間に、児童の体力が高まるよう、運動意欲と技能の向上、運動時間の確保に努める。 ・ゴールデンタイム等を通して、授業以外の時間にも、積極的に体を動かすことができるようにしていく。	【成果指標】 スポチャレ8の字で標準回数を突破している。	スポチャレ8の字で標準回数(1年:60回　2年:100回　3・4年:180回　5・6年:230回)を突破した学級が A: 4学級 B: 3学級 C: 2学級 D: 2学級未満	3学級が標準記録を突破した。特に、12月のなわとびチャレンジタイムでは、熱心になわとび練習に励む姿が見られた。これが8の字の記録の伸びにつながったと考える。	B	主担当:松本 評価方法: スポチャレ8の字 評価実施時期: 7月、1月
	健康教育の推進	・毎月「元気アップカード」を行い、規則正しい生活習慣を身につけさせる。 ・早寝・早起きの大切さ、メディアの使用時間等について指導する。 ・朝ごはんの大切さや食事のマナー等の食育を行う。	【満足度指標】 学校での指導や家庭での働きかけの結果、子ども達の生活習慣が向上している。	保護者アンケートの「早寝・早起き・朝ごはんが実行できている」という項目に肯定的に回答した保護者が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	肯定的に回答した保護者は70%であった。元気アップカードの結果は80%以上ではあるが、取組期間だけではなく、日常的に規則正しい生活を送れるよう指導・面談していく。	C	主担当:上田 評価方法: 保護者アンケート 評価実施時期: 7月、1月
4絆づくり・開かれた学校	地域の教育力の活用	・地域人材を活用し、地域の特色を生かした授業実践を行う。	【努力指標】 生活科、総合的な学習、道徳などの授業やクラブ活動などで、地域の人材を活用する授業を行っている。	学期に1回以上行った学級が A: 4学級 B: 3学級 C: 2学級 D: 1学級	1・2年生の干し柿づくり、3・4年生の生き物観察会や社会科見学、5・6年生のかきもち PR や販売活動、道徳のGTとして全学級で地域の方々と交流し、学ぶことができた。	A	主担当:山野 評価方法:担任からの報告等 評価実施時期: 7月、1月
	学校情報の積極的な公開と家庭・地域への適切な説明	・学校だよりや学級だよりの発行、ホームページの充実により、保護者が学校経営方針や教育内容を理解できるように努める。	【満足度指標】 保護者が学校の教育方針や児童の様子が伝わっていると感じている。	保護者アンケートで「学校は、学校だより、学級だより、ホームページ等で児童の活動の様子を保護者に伝えている。」に対し、肯定的な回答をした保護者の割合が、 A: 85%以上 B: 75%以上 C: 65%以上 D: 65%未満	肯定的に答えた保護者は100%であった。今後も学校の様子を様々な手段できめ細かに発信していきたい。	A	主担当:冨水 評価方法: 保護者アンケート 評価実施時期: 7月、1月
5人材育成・働き方改革	人材育成	・若手が中心となって、職員全体で学ぶ機会を設定する。 ・日常的に、かつ月1回短時間でも設定し、授業や行事に生かす。夏季休業中に、若手主催で研修会を実施する。	【努力指標】 若手教員早期育成プログラムの研修が日常的・定期的に行われている。	学期に若プロ研修会を実施した回数が A: 3回以上 B: 2回 C: 1回 D: 0回	計画に沿って行うとともに、職員の要望に応じて危機管理対応や教科指導について実施できた。若手が中心となって、GIGAや複式授業の研修も行うことができた。	A	主担当:山野 評価方法: 実施回数 評価実施時期: 7月、1月
	働き方改革の推進	・校務分掌の平準化と担当の明確化を図り、意識改革を推進する。 ・業務改善のための会議を定期的に開催する。 ・校務支援システムの活用による業務改善を増やす。	【成果指標】 教職員が働き方改革を意識して効率的に業務を行い、時間外勤務時間を削減している。	定時退校日を月に 3 回(第3水曜日、最終金曜日、マイ定時退校日)とし、定時退校日を 3 回以上取得した割合が、 A: 120%以上 B: 100%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	定時退校日を月に3回以上取得した割合は、2学期は180%と高い取得率だった。会議の回数を減らす等の業務改善を行い、全職員が見通しを持って職務を遂行することができた。	A	主担当:冨水 評価方法: 勤務時間記録表、職員アンケート 評価実施時期: 7月、1月